

四万十町文化的施設基本計画

目次（案）

はじめに

第 1 章 四万十町における文化的施設の基本方針

1. 文化的施設の役割

（ア）意義と理念

そもそも、なぜこの施設が必要なのか、この時代にわざわざハコモノを整備することの意味、理念をあらためて示す。その際にデジタル情報社会で生き抜く術を学んでいくことの重要性はなにかを示す。

（イ）具体的な 4 つの役割

- ① ひととまちをつなぐ、コミュニティの場
- ② 子どもたちが自分の居場所を見つけられる場
- ③ 最新の情報を活用した、多様な文化・芸術体験の場
- ④ 想像／創造体験を通した、自己表現の場

2. 新しい文化的施設のビジョン

「まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる四万十駄場」（基本構想からの転載）

3. ビジョンにつながるコンセプト（ミッション）

「人・自然・文化 ～やわらかい社会をつくる～」（基本構想からの転載）

4. コンセプト実現のためのアクションプラン

（ア）図書館・美術館を核とする文化機能の融合

歴史、文化、読書、表現、創造、交流といった多面的な融合の意義

融合によって生まれるメリットと融合しないことで生まれるデメリット

（イ）広域なまち全体にひらかれ、各地域をつなぐ

各施設・機能との連動、全域サービスの可能性（十和地区分館の可能性）、配送等における情報技術の活用（例：ドローン）

（ウ）施設をともに支えるサポーターの存在

町民との協働、町民間の互助・共助、サポーター団体の設立と運営（先行事例の研究の必要性）

（エ）実空間と情報空間をつなぐ情報システム

Society5.0 を見据えた情報システム像の確立、デジタルデバイスの徹底的な活用
(同時にデジタルデトックスの逆提案)

第2章 四万十町文化的施設の利用体験ストーリー

1. 世代

- (ア) 乳幼児と子育て世代
- (イ) 小学生・中学生
- (ウ) 高校生・大学生
- (エ) 実働世代
- (オ) 高齢者世代

2. 地域

- (ア) 窪川地域
- (イ) 大正地域
- (ウ) 十和地域

3. 関係

- (ア) 働く人（福祉、図書館、議員、商店主、経営者、行政職員、農業・林業等）
- (イ) 暮らす人
- (ウ) 訪れる人

「20XX年、この施設をあなたはどのように使いますか？」

※それぞれの人々が、文化的施設をどのように使っているのかを想像しまとめる

第3章 四万十町文化的施設のサービス目標・管理運営

1. 文化的施設のサービス目標
 - (ア)核となるサービス目標
 - 四万十町らしい文化目標
 - 情報技術リテラシーの涵養目標
 - (イ)施設間連携によるサービス目標
 - 文化施設間の連携
 - 小中高との連携
 - 福祉施設、病院との連携
 - 商店、喫茶店等との連携
 - 観光施設、宿泊施設、道の駅との連携
 - (ウ)アウトリーチによるサービス目標
 - 窪川・大正・十和をつなぐユニバーサルサービス
2. 図書館と美術館が融合する文化的施設の望ましい管理運営方針
 - (ア)開館・閉館
 - (イ)資料の貸出・返却
 - 図書資料
 - 美術資料
 - 歴史資料
 - (ウ)作品（資料）の展示・閲覧
 - (エ)資料の保管・管理
3. 町民との協働による施設運営のあり方・スケジュール
4. 専門職員（司書、学芸員、その他）の育成・研修のあり方、スケジュール
5. 人材確保・雇用方針のあり方、スケジュール
6. 管理運営のあり方
 - 直営体制と委託体制（指定管理を含む）の比較検討

第4章 四万十町文化的施設の建設計画・スケジュール

1. 文化的施設の位置と規模
2. まちにひらかれた計画・設計の実現
3. 施設に必要な機能とあり方
4. 施設整備スケジュール